

地場産業とまちづくりの現状と考察 さいたま市岩槻区の人形産業を事例として

04LL150 柳内彩花

研究の概要

日本の一つの特徴とも言える地場産業は、地域の経済や雇用面はもちろん、長い歴史を経て地域の文化的側面にも大きな影響を及ぼしてきた。そのため、地域と地場産業を切り離して考えることはできない。その地場産業が今、需要の減少等によって衰退の危機に直面している。この衰退状況を回復に向かわせるためには、単に売上げ増加等の産業的・商業的観点からのアプローチだけではなく、地域の中で発展してきた地場産業だからこそ、地域と共に活性化していくことが必要となってきたと思う。

そこで、本論文では、江戸時代から続く歴史と伝統ある岩槻の人形産業を対象地に設定し、地場産業の現状と活性化に向けた取り組みについて調査すると共に、地場産業を中心としたまちづくりが活性化にどのようにつながっていくのか検討した。

論文の構成と研究方法について

論文は、まず日本の地場産業の分布と現状について調査し、大きく地場産業が今どのような状況であるのかを見ていく。

次に、対象地である岩槻の人形産業に絞って調査する。まず歴史・現状を知った上で、実際に人形産業に関わっている人たちにお話を聞くことで生の情報を得、現状と、活性化に向けてどう取り組んでいるのか考察する。

さらに、現在行われている取り組み、特にイベントについての紹介も行った。

【方法】

第 2 章において日本の地場産業の分布について文献や資料を参考に調査。さらに、生産額や事業所数の変化などの現状をデータに基づき分析した。

次に第 3 章では、岩槻人形の歴史についての文献調査と、統計データを基にした現状についての分析を行った。さらに、岩槻の人形関係者に対して、岩槻の人形産業の現状と活性化に向けた取り組みについてのヒアリング調査を行い、考察。また、現在行なわれている取り組みについて紹介した。

最後に第 4 章において、全体のまとめと考察を行った。